

平成 22 年度第 6 回（通算第 34 回）
山口国際文化化学研究会へのおさそい

「十九世紀江戸の物語と出版」

教員世話人 安溪遊地 井竿富雄 張玉玲
院生世話人 高静 申明賢 竹部徳真

日時 平成 22 年 12 月 22 日（水曜日）16 時 10 分より
場所 国際文化学部棟 C-12 教室
主催 大学院国際文化化学研究科

発表者 木越俊介 国際文化化学研究科准教授
タイトル 「十九世紀江戸の物語と出版」

（発表要旨）

19 世紀の江戸時代は、寛政の改革を挟んで全国的に「知」の底上げがなされつつありました。すなわち、学問を修めることで識字率も向上するわけですが、その一方で娯楽小説も前代に増して読まれるようになりました。

この時代に人気を博した物語たちの魅力はいかなる点にあったのか、そしてそれらの本は商品としてどのような過程を経て読者の手に渡ったのか。当時物語を量産した作者・絵師・板元（本屋）たちの営為を分析しながら、江戸時代の読者像に迫ってみたいと思います。

時間があれば、目下興味を抱いている 19 世紀初頭に出現した紙上歌舞伎「絵入根本（えいりねほん）」について触れ、江戸と上方における、本と浮世絵の関係性をめぐる文化的な相違についても紹介します。

終了後 18 時から Yucca で、第二部として自由なトークを展開できる場（やまぐち国際文化化学 SALON）を準備しております（有料）。こちらも皆様の積極的なご参加をお願いいたします。